

深い学びへ活用法探る

坂井で研修会 教員180人真剣

県内の小中学校教員を対象にした「新聞を活用した教育研修会」が31日、坂井市の県教育総合研究所で開かれた。嶺北を中心に約180人が参加。2020年度に全面实施される次期学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い



学び」に向けて、NIE(教育に新聞を)の意義を考えた。県教委が主催し、今年で7回目。NIE実践指定校2年目の5校の担当教員が報告した。

福井市成和中の佐藤宏美教諭は、技術家庭科で「食」に関する記事を切り抜いて感想を書いたり、理科で天気予報欄を活用したりするなど各教科の取り組みを紹介。教科書では触れていないタイムリーなニュースや話題を通して、知識の幅を広げるとともに、

さまざまな情報を見比べて自分で判断する態度が養われているとした。

勝山市村岡小は金曜の朝学習の時間を使った「NIEタイム」で、気になった記事をグループ内で紹介するなどしている。古家博美教諭は全児童対象のアンケートで「文章を速く読めるようになった」「いろいろな地域のことを知ることができた」といった感想が多くあったと話した。



ワークショップで、気になった新聞記事を切り抜く参加者＝31日、坂井市の県教育総合研究所

ワークショップで、気になった新聞記事を切り抜く参加者＝31日、坂井市の県教育総合研究所

ニケーションできた。学校でも実践し子ども同士の交流を図っていきたい」と話していた。社会科担当の齊藤永敏教諭(38)＝大野市上庄中＝は、授業で新聞をよく使っているとし「社会科だけでなく多様な教科にNIEを広げていくべきだ」とした。(宇野和宏)